



栃木の保護者の声でつくる
幼児教育センター情報誌

おうち

テーマ

話す子・話さない子

第28号
 2016.3



「いもむし」 やながわ かんたさん (認定こども園あかみ幼稚園 年中)



U字工事
 益子 卓郎

僕は現在お笑い芸人という仕事をしていますが、小さい頃は自分からはあまり話さないおとなしい子でした。そんな子供だったので、まわりからは「おとなしくておりこうだね」と褒められることも多かったのです。真冬なのに「アイスクリームでも買いな」と言われて、ポケットに小遣いの千円札をねじこんでくるおばちゃんも多かったのです。しかし、得した反面、運動会で指揮者を任せられたり、気付いたら学級委員になっていたりと、負担になることも多くありました。そんなおとなしい僕でしたが、少年野球をやっているときは、率先して声を出していました。好きだったし、自信もあったんだと思います。その分、友達ともたくさんコミュニケーションが取れ、楽しい時間でした。よく話すというよりは、人とたくさんコミュニケーションが取れるというところなのだと思います。でもいろいろ思うことができます。しかし、一方的に話すだけでなく相手の話もきちんと聞いてあげることができると、とても良い友達関係が持てると思います。

しかし、中には話しても緊張して話せない、何の話をしているかわからない、といった子も多いと思います。僕も、そのタイプの人間なので、話の苦手な子の気持ちがとてもよくわかります。そんな時は、共通の話題を探してみたり、そして、恥ずかしがらずに笑ってみる、それが僕の対策です。

仕事の関係で、全国のいろいろな子に出会いますが、よく笑い、よく動く、こんな子に会うと「育ちがいいな」と感心してしまいます。その子の性格ももちろんありますが、きっと親御さんや近所の人達の作る環境もとてもいいんだなと思います。子供がビクビクしてしまうような環境を、我々は作ってははいけません。だんなと考えさせられます。大事なものは、たくさん笑わせてあげることが思っています。

そんなことを言っている僕ですが、子供にあんまり人気がないので、これから一層頑張る次第です(笑)。